

公開版

教員養成講座 | 入門編

第2回 マイクロ・ティーチングの説明

— 計画案を仕上げ、シナリオをつくろう —

栗田 昇平

前回（第1回）のふりかえり

経験 ≠ 成長

経験を積むだけでは成長しない。
経験を「振り返る」ことで成長につながる。

ALACT モデル

行為 → 振り返り → 本質的な諸
相への気づき → 行為の選択肢
の拡大 → 試行の循環

4つの知識の統合

教育方法・教科内容・学習者・
環境文脈の知識を、目の前の子
どもに合わせて統合する
(PCKg)

今日から：マイクロ・ティーチング（MT）は、ALACTの「行為」と「振り返り」を実際に回す最初の間です。準備の段階から、「何を教えたいか」「どう声をかけるか」を考えていきます。

本時のアウトライン & 到達目標

アウトライン

- 1 マイクロ・ティーチング（MT）の説明**
マイクロ・ティーチングとは何か
- 2 計画案を仕上げる**
「指導上の留意点」の書き方とシナリオづくり
- 3 班で担当決め → 計画案づくり・課題**
担当者割り当てシートへの入力、課題の説明

本時の到達目標

- ☒ 自分がどの領域・活動を担当するかを把握する
- ☒ 「指導上の留意点」の書き方を理解し、計画案とシナリオを仕上げる見通しをもつ

Part 1

マイクロ・ティーチングの説明

マイクロ・ティーチングとは何か

マイクロ・ティーチング（MT）とは

授業の一場面を短く切り出して、教師役として実際に教えてみる練習

- 1 名が、体育授業の 1 場面（10 ～ 15 分程度）を教師役として担当し、学習を進行させる
- 体育館を 4 分割し、1 つの区画を 3 班で使用する（教師役 1 班・児童役 2 班）
- 班は 4 名または 5 名。マット運動は①②を 2 名、ネット型・ゴール型は①②③を 2 ～ 3 名で分担する
- マット運動①②・ネット型①②③・ゴール型①②③を、それぞれ 2 日ずつ行う
- 計画の大枠はこちらで指定。指導に必要な空白部分を自分で埋め、シナリオ（自分が話す言葉の詳細）を作成して臨む

ねらい：1 時間の模擬授業（第 10 回～）の前に、「説明する・動かす・声をかける」を小さく試して振り返る

これから行うこと（今日と来週）

1

班の中で、担当領域と活動を決める

ネット型・ゴール型は①②③を2～3名で分担。計画案には全活動が書いてあるが、自分の担当箇所だけを書く。決まったら担当者割り当てシートに名前を入力

2

Classroom の計画案を見て、空白部分を埋める

具体的な練習方法は指定していない。自分で設定し、実際の活動として運用できるようにする

3

自分が話すことを具体的に書き出し、シナリオを作る

箇条書きにしない。子どもに向けて実際に話す言葉で書く

4

シナリオの読み合わせをして、足りない部分を補う

次回に班で行う

Part 2

計画案を仕上げる

「指導上の留意点」の書き方とシナリオづくり

計画案のどこを書くのか

Classroom の計画案（マット運動／ネット型／ゴール型）の構成

領域名・本時の目標（指定済み）		
時間	学習内容と活動	指導上の留意点
0 分	1. 集合	空欄 ↓ ここを自分で書く
	2. 技の紹介	
15 分	3. 練習（練習方法は自分で設定）	
	4. 集合・フィードバック	
練習方法などの空白部分を埋める		
<シナリオ> 実際に話す言葉を書く		

今回、自分で仕上げるところ

- ① 指導上の留意点
→ 今日を中心。このあと書き方を説明
- ② 練習方法などの空白部分
→ 自分で設定し、留意点に書く
- ③ シナリオ
→ 計画案の最後の欄に、話す言葉で

「指導上の留意点」とは

学習内容と活動（左の欄）

子どもが「何を」するか
＝ 授業の流れ・活動の順番



指導上の留意点（右の欄）

教師が「何に気をつけて」
「どのように」指導・支援するか

例：活動「3．側方倒立回転の練習」の横に書く留意点

- ・腰が上がらない児童には、逆V字の軌道でよいことを伝え、手をつく位置を示す。
- ・マットの間を空け、前の人がマットから出てから次の人が始めるよう指示する。

何を書くか — 5つの観点

→ ルーブリック 観点②

1 学習のポイント

身につけさせたい動きのコツや考え方を、どう伝えるか（示範・掲示・ポイントの絞り方）

2 つまづきへの手立て

予想されるつまづきと、その子への支援（場・用具・段階・助言）

3 安全への配慮

間隔・順番・用具の扱い・待ち方など、けがを防ぐための指示

4 場づくり・マネジメント

隊形、用具の準備、チーム分け、時間配分、集合のさせ方

5 評価の視点

本時の目標が達成できたかを、子ども「どんな姿」で見るか

全部の行に5つ書かなくてよい

その場面で一番大事な観点を選んで書く。言葉かけ（発問・フィードバック）は第3回で詳しく扱う。

どのように書くか — 4つのルール

→ ルーブリック 観点①②

1

主語は教師

文末を「～させる」「～するよう伝える」「～を確認する」「～を示す」にする

× 側転をする → ○ 2人1組で、互いの手のつき方を見合わせる

2

具体的に書く

誰に・何を・どのように。数字・場所・動きの言葉を入れる

× 安全に気をつける → ○ マットの間を 2m 空けて配置する

3

つまずきは「～な児童には、～する」

予想される姿と手立てをセットで書く

○ ボールを怖がる児童には、ソフトバレーボールを使わせる

4

左の活動と対応させる

「学習内容と活動」の番号と同じ高さに書き、本時の目標とつなげる

○ 目標「パスの正しい行い方」→ 留意点で見るポイントを明確にする

書き換えてみよう — ✕ よくある書き方 → ○ 留意点

✕ よくある書き方	○ 指導上の留意点として
ポイントを説明する	側方倒立回転のポイント（手と手の間を見る）を、示範で目線を強調しながら伝える。
安全に気をつける	マットの間を空け、前の人がマットから出てから次の人が始めるよう指示する。
できない子を助ける	腰が上がらない児童には、手をつく位置にケンステップを置き、まずは逆 V 字の軌道で行わせる。
声をかける	「右右左左」のリズムで行えている児童を取り上げ、全体でよい動きを共有する。

左の書き方は「何をするか」が決まっていない。右は、読めば当日そのまま動ける

記入例 — マット運動 活動②（側方倒立回転）

時間	学習内容と活動	指導上の留意点
0 分	1. 集合	・ マットの前に座らせ、全員が示範を見られる位置に集める。【場づくり】
2 分	2. 側方倒立回転の技の紹介 (ポイント 2 ～ 3 つ)	・ 示範は正面と横から見せる。 ・ ポイントを「右右左左」「手と手の間を見る」の 2 つに絞り、掲示する。【学習のポイント】
5 分	3. ポイントに即して 段階的に側転を完成させる	・ 腰が上がらない児童には、逆 V 字の軌道でよいことを伝え、手をつく位置を示す。【つまりき】 ・ マットの間を空け、前の人がマットから出てから始めるよう指示する。【安全】
13 分 ～ 15 分	4. 集合・出来栄の フィードバック	・ 2 つのポイントができていた児童を取り上げ、どこがよかったかを全体で確認する。【評価の視点】

※ 【 】は観点の目印（実際の計画案には書かなくてよい）。この例をまねるのではなく、自分の担当箇所・練習方法に合わせて考える。

ヒントは計画案の中にある

マット運動

計画案に書いてあること

「技のポイント例」と「段階的な練習の例」

→ 留意点にすること

- ・ポイントをいくつに絞り、どう見せるか
- ・段階ごとの場づくりと、つまずく子への手立て

ネット型

計画案に書いてあること

注1 アタック練習・注2 ラリーゲームの準備とルール

→ 留意点にすること

- ・役割のローテーションや得点の数え方を、どう短く伝えるか
- ・ねらう位置やミートの仕方を、どう助言するか

ゴール型

計画案に書いてあること

図1・図2の準備と流れ、「課題ポイント」（2対2）

→ 留意点にすること

- ・場の準備と、ペア・チームの動かし方の指示
- ・ボールを持たない人の動きを、どこで見て、どう助言するか

計画案に書かれている手がかりをもとに、自分の担当箇所の留意点を書いてみよう

シナリオとは？ — 「話す言葉」で書く

→ ルーブリック 観点③

× 箇条書きのメモ

- ・ 集合、あいさつ
- ・ 前転の説明
- ・ 示範
- ・ ポイントの確認
- ・ 練習開始

○ シナリオ（話す言葉）

「今日は前転をします。先生が一度やってみるので、**手をどこについているか**をよく見ていてね。」

(示範)

「手はどこについていたかな？」

「そう、肩幅くらいに開いて、パーでついていたね。では、手のつき方に気をつけて、1人2回ずつやってみよう。」

「指導上の留意点」に書いたことを、子どもに向けて実際に話す言葉にしたものがシナリオ。当日に「何を言えばいいかわからない」を防げる

課題

課題 1 計画案を完成させる

自分の担当箇所の計画案について、

- ・練習方法などの空白部分を埋める
- ・「指導上の留意点」を自分なりに詰めて書く

→ 計画案を「このまま授業ができる」状態に

課題 2 シナリオをつくる

計画案の＜シナリオ＞欄に、
実際に子どもに話す言葉で書く
(箇条書きにしない)

→ 留意点に書いたことを、話す言葉に

次回は、このシナリオを使って班で読み合わせをします

提出：Word ファイル

締切：次回の授業の前日

課題のルーブリック（評価規準）

観点	A（よくできている）	B（おおむねできている）	C（努力を要する）
① 指導上の留意点 具体性 対応：4つのルール の1・2・4	各活動に対応した留意点が、教師を主語に「何を・どのように」行うかまで具体的に書かれ、読めば当日そのまま指導できる。	各活動に留意点が書かれているが、一部に「気をつける」「声をかける」など、何をすることが曖昧な記述がある。	留意点が一部の活動にしか書かれていない、または大半が抽象的で、何をすることが読み取れない。
② 指導上の留意点 子どもの姿の想定 対応：5つの観点の1・2・3・5 ＋ルール3	本時の目標とつながる学習のポイントが明確で、予想されるつまずきへの手立てと安全への配慮が、担当場面に即して書かれている。	学習のポイント・つまずきへの手立て・安全への配慮のいずれかが欠けている、または担当場面に即していない。	できる姿・つまずく姿の想定がほとんど見られず、本時の目標とのつながりが読み取れない。
③ シナリオ 対応：シナリオとは	留意点に書いた内容が子どもに話す言葉で具体的に書かれ（説明・示範の前後・指示・問いかけ）、時間内に収まり、そのまま授業ができる。	話す言葉で書かれているが、留意点との対応や、示範・指示などの場面に一部不足がある。	箇条書き・メモにとどまっている、または活動の一部しか書かれていない。

※ 提出前に、対応するスライドを見直し、自分の計画案とシナリオがAになっているかを確認しよう

次回予告

第 3 回

よい体育授業のための「言葉かけ」
＋ シナリオの読み合わせ

おつかれさまでした！